

## RCA の日本での活動歴史

認定特定非営利活動法人 放射線医療国際協力推進機構 理事長

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構

量子医学・医療部門長 中野隆史

IAEA の RCA は、「原子力科学技術に関する研究、開発及び訓練のための地域協力協定」(Regional Cooperative Agreement for Research, Development and Training Related to Nuclear Science and Technology) の略称です。この RCA は、IAEA の活動の一環として、アジア・太平洋地域の開発途上国を対象として、アジア・太平洋地域の開発途上国を対象として、締約国間の相互協力及び IAEA との協力により、原子力科学技術に関する共同の研究、開発及び技術移転を促進することを目的として活動しています。我が国では外務省が対応機関として、国内の研究機関や大学等の教育、研究機関が参加して技術供与を中心に協力しています。

この RCA は 1972 年に 6 カ国（インド、インドネシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）により発足し、1975 年、最初のプロジェクトとして「魚および魚製品保存のための電離放射線利用」（食品照射）の研究を開始しました。日本は 1978 年に RCA に加盟し、現在、アジア・オセアニア地域の 22 か国が加盟しています。そして、農業（含食糧）、健康（含医療）、工業、環境（含大気汚染分析、沿岸・海洋資源探査、水資源管理）、放射線・原子力安全、エネルギー計画の分野で、アイソトープ・放射線利用分野の原子力平和利用での協力活動を行ってきました。現在実施されている RCA のプロジェクトは、4 分野であり、(1) 農業:放射線育種、食品照射等、(2) 保健・医療:がんの放射線治療、核医学診断等、(3) 環境:海洋モニタリング、地下水分析等、(4) 工業:放射線加工による材料加工・開発、です。我が国は全ての分野のプロジェクトに専門家を派遣し、積極的に協力活動を行っています。

2002 年、日本政府は、「人間の安全保障」を重視する観点から、医療分野における協力を重視し、RCA の保健・医療の分野のリードカントリー（責任国）を引き受け、IAEA/RCA 保健領域国内対応委員会を設置し、国内の支援体制を整えました。そして、保健医療領域以外の領域で個別に対応されてきた工業利用、農業利用などの RCA 活動を組織的に支援するために、2014 年に全領域に拡大した IAEA/RCA 国内対応委員会を発足させ、現在に至っています。このように日本は IAEA/RCA 活動を通して、アジア・太平洋地域における原子力の平和的利用の促進に積極的に貢献しています。